

福王寺だより

お彼岸も過ぎ、段々と日が短くなり、冬に向かつていく様を感じる季節となってきました。大雪山の初冠雪も早かったようですね、皆様お体ご自愛ください。合掌

自分と世界と

最近悲しいニュースが目につきます。芸能界の人々の自死であったり、テレビをつけても非難ばかりで、寂しい思いになってしまいます。

「現代人はどんな事を考えて行きているのだろうか？」

岡野守也氏の、『トランスパーソナル心理学』にこう書いていました。

- ① 自分の人生は自分のもので、自分のためにある
- ② 自分の人生は一回きりで、死んだらおしまいだ。もう意味がない
- ③ 人間は結局は自分のことしか考えられないものだ

④ 人生の意味は自分の楽しいこと・得になることをやることしかない。

⑤ 「人に迷惑さえかけなければ何をしてもよい」

⑥ 「自分も大切なだから人も大切にしなければ」

⑦ 「自分の楽しみ、幸福、利益のためにならなにをしたって良いじゃないか？」

「皆さんどうおもいますか？」

私も凡人なので、そう思うところもいくつもあります。右の例えは、何を言っているのでしょうか？

その根底にあるのは「自分」です。

私達は「自分」を中心に考えてしまう生き物です。そうした煩惱を持ってここにありません。

ですので、豊かになりプライバシー。プライベートが尊重され、個人（自分）が一番の時代となりました。しかし裏を返せば、「個人」とは「孤人」です。

どこまでも個人を尊重するならば、この世界からも切り離された、たった一人の孤独な存在です。誰からも必要とされない、必要としない、寂しい世界です。

しかし、そうなるかわかっていても「自分」というものに囚われてしまうのが私達です。仏教

はそこで「無我」という教えを説かれました。

私達の身体

一つとつても、細胞の集まりです。その細胞は今日も死に生まれ、新陳代謝をしています。私という身体は、数年前と違う物質で出来ています。

様々なお陰様（縁）で私達は今ここにあるのです。

最近読んだ投稿で、季節ですね、網走の浜では「鮭釣り」が盛んに行われています。そこにはたくさんゴミがあると聞きます、それを放置して自分のゴミをそのままにしていく人と、将来もこの海で釣りをしたいからと、少しでも自分のゴミでなくても拾っていく人がいると聞きました。

自分だけ良ければ良いといつても、最期に海は益々汚れ自分の居場所も無くなつていきます。

たとえ話で、私達の身体をつくっている細胞と、世界でみてみると世界をつくっている私達は、一緒のようなものかもしれません。



胃が自分を主張して、孤立していったら胃も活動できないし、人間もだめになってしまいます。

ご縁があつて、この世界に生まれてきています。きつと私達は何かしらの役割をもつてここに存在しているのだと思います。せつかく生まれたからには、自分のためだけではなく、何かそうしたつながらりの中にある自分にできることをコツコツとこなしていく、それが良い繋がりとなり、自分も生きて来るのだと思います。

昔のフライベートが全く無い社会が良いのかわかりませんが、もう少し気軽に頼り頼られる社会であつて、人が自分にできることを率先してできる環境になれば、少しは悲しいニュースも減るのではないかと思うこの頃です。

「自分」を超えれば仏ですから、難しいところではありますが、せつかくの人生助け合つて笑い会えれば良いですね。

幸せ目指して精進しましょう。合掌



行事のご案内

十一月三日 午前九時

第三回下座行

第三回目の下座行です。先祖様に供養すると同時に心を磨きましょう。

落ち葉の片づけ等行います。是非一度も来られたことがない方も、お気軽にご参加下さい。

気持ち良いですよ。

十一月十七日 午前十時

報讃会

今年最後の大法会です。網走の管内のご寺院様、布教師様をお招きし、一年の感謝を込めて祈りを捧げます。

理趣三昧という、

聞くだけでも罪を減し、善を増す、密教の大法会を執行します。

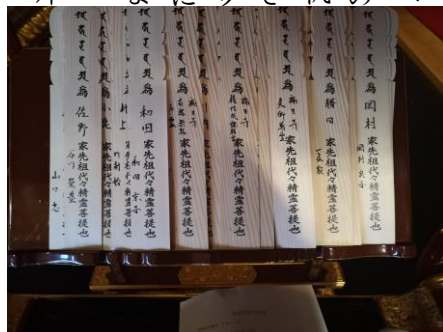
是非お参り下さい！



寺院からのお知らせ

秋彼岸

コロナ環境の中、今年も無事に秋のお彼岸の法会を執行することができました。皆様のお参り、お手伝い本当にありがとうございました。暑さ寒さも彼岸までご自愛下さい。



人口減少

津別町も四千となり、人口減少が激しい地区であります。二十五年には二千人となる統計もでています。

時代が変わる中で、お寺の在り方も変わってくるのだらうと思つていますが、心に寄り添える、安心できるお寺でありたいと思います。

「こころがこの世界を作る」

仏教の考え方です。どんなに環境が変わつても幸せを目指して歩む姿が幸せなのかもしれません。

皆様も「こころ」を大切に歩んでいきましょう。

合掌